

【Orlanthdar】

説明

解説

■ 神殿

嵐の神殿。小神。

■ 称号、職能

オーランスが氏族を起こしたときに名乗った“指導者”としてのオーランスの名。オーランスの別名の一つ。“族長”とも、“王”とも。

■ 概略

オーランスが初めて氏族を作り上げたとき、トルクを身にまといオーランスダールと名乗りをあげた。嵐の部族を作ったときには冠を頂いた。それから何れの場合も自分を助けてくれる者を近侍として集め、評議会、すなわち「輪」を作り上げた。

そうして氏族の指導者として、戦場で得た略奪品のすべて、人や獣に生まれた三つ子のうち一人、それに穀物の収穫と家畜のそれぞれの一部を自分のものとした。また部族の指導者として、自分が戦った戦闘での略奪品のすべて、王の家族の日々の食事、部族の裁判所や市場を使用する際の手数料、それに穀物の収穫と家畜のそれぞれの一部を自分のものとした。これらは今も氏族長、部族王の権利として引き継がれている慣習であり、ダールが始めたことである。

氏族や部族の内なる輪の構成員はダール信者と見なされるが、彼らはダールに時間を捧げている訳でもなく、それ故にダールの魔術を学ぶことも無い。真実の構成員と言えるのは氏族長や部族王であり、氏族長は“族長”ダールに、部族王は“王”ダールに信仰を捧げ、魔術を学ぶ。

オーランスのカルトとしては社会的地位に根ざしたカルトであり、その信者は限られている。

■ 異界

組織

■ 相、カルト

すべての父オーランスの下位カルト。

別名

- ・ オーランスダール
- ・ “指導者” ダール

参考文献

- ・ 『Thunder Rebel』 p.231-232、216-217